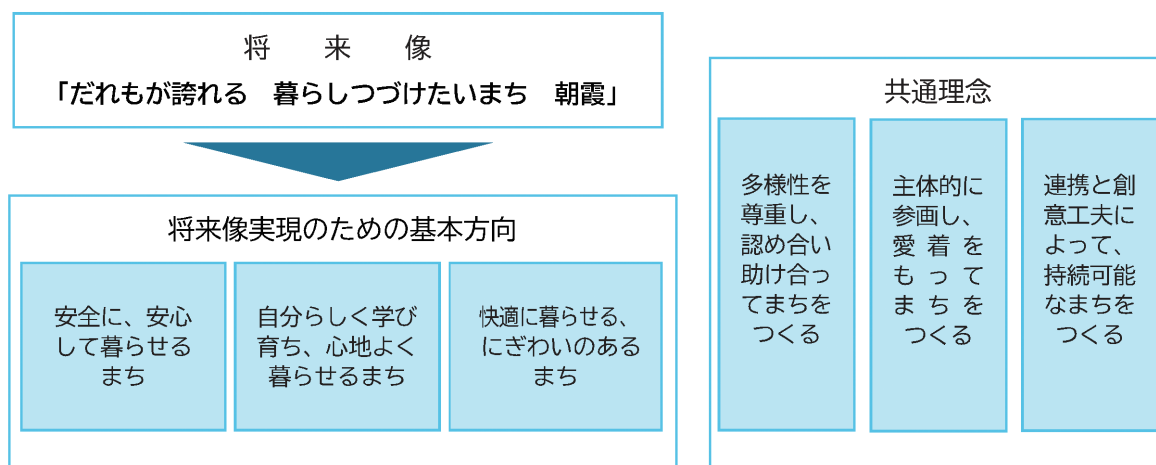


朝霞市の将来像と取り組むまちづくりのテーマ



1 朝霞市の将来像

ここでは、本計画の策定時から概ね20年後に向けたまちづくりを進めるうえでの統一的な目標概念となる「将来像」や、その実現のための「基本方向」及び「共通理念」をそれぞれ設定します。第6次朝霞市総合計画が策定されたことから、相互の連携をより深めることが重要と考え、両計画で同じ将来像と基本方向、共通理念を掲げます。また、これらを実現するために本計画で取り組むことについても、第6次朝霞市総合計画の基本構想の内容に即して掲げます。



本市の将来像とその実現のための基本方向及び共通理念

(1) 将来像

だれもが誇れる 暮らしつづけたいまち 朝霞

本市は、武蔵野台地に育まれたみどりに恵まれ、交通利便性の高い東京近郊の住宅都市として発展し、市制施行時に約5万5,000人だった人口は、これまで増加を続け、令和7(2025)年には約14万6,000人を有する都市に成長してきました。

これからも、本市の強みである生活利便性や安全性、恵まれた自然環境、朝霞市民まつり「彩夏祭」に代表される文化等を、未来に継承していきます。

さらには、近年希薄化しつつある人と人とのつながりの再生や、協働によるまちづくりの活性化を通じ、第5次朝霞市総合計画の将来像として掲げた『暮らしつづけたいまち』をさらに洗練することで、誰にとっても魅力的で誇りを持てる、住みやすいまちを目指していきます。

(2) 基本方向

将来像を実現するためには、市政運営の大きな方向性を示し、皆が方向性を同じくして取り組んでいくことが大切です。そこで、将来像の実現のための基本方向として、次の3つを掲げます。

安全に、安心して暮らせるまち

こどもや高齢者、障害者等、誰もが「災害や犯罪への対策が充実しており、安全に暮らしていける」と実感できるまちを目指します。

また、「子育て支援等の福祉サービスや、市民の健康づくりへの支援等が充実しており、安心して暮らしていける」と思えるまちを目指します。

自分らしく学び育ち、心地よく暮らせるまち

こどもや高齢者、障害者等、誰もが「充実した教育を受けながら成長し、活躍する場がある」と実感できるまちを目指します。

また、「恵まれた自然環境の中で、人と人とのつながりがあり、住みやすい環境がある」と思えるまちを目指します。

快適に暮らせる、にぎわいのあるまち

こどもや高齢者、障害者等、誰もが「道路や公園等のインフラが整備され、便利さと快適さがある」と実感できるまちを目指します。

また、「地域の特性を生かした産業の活力があり、にぎわいがある」と思えるまちを目指します。

(3) 共通理念

将来像の確実な実現に向け、すべての政策を推進するための共通理念として、次の3点を掲げます。この共通理念は、行政のみならず、市民、市民活動団体、さらには事業者や学術研究機関等の多様な主体が共通して理解し、常に心がけてほしい姿勢となります。

多様性を尊重し、認め合い助け合ってまちをつくる

本市には様々な人々が暮らしており、個性や価値観、社会的な状況等多様です。また、人々と同様に、本市の各地域にも、それぞれの個性があります。

これからのまちづくりでは、社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)や多様性(ダイバーシティ)を尊重し、人の個性や地域特性の多様性を尊重し、認め合い助け合いながら、未来の朝霞をつくっていきます。

主体的に参画し、愛着をもってまちをつくる

地域における課題解決に向けては、行政だけではなく、市民等それぞれが自分ごとと捉え、様々な視点から主体的に活動することが大切になります。

これからのまちづくりでは、市民にとって市政への参画が身近であることを目指すとともに、参画と協働を通じて愛着を育みながら、未来の朝霞をつくっていきます。

連携と創意工夫によって、持続可能なまちをつくる

複雑化・多様化した課題の解決には、広域的な視点や、市民等、行政以外の視点を取り入れることが欠かせません。

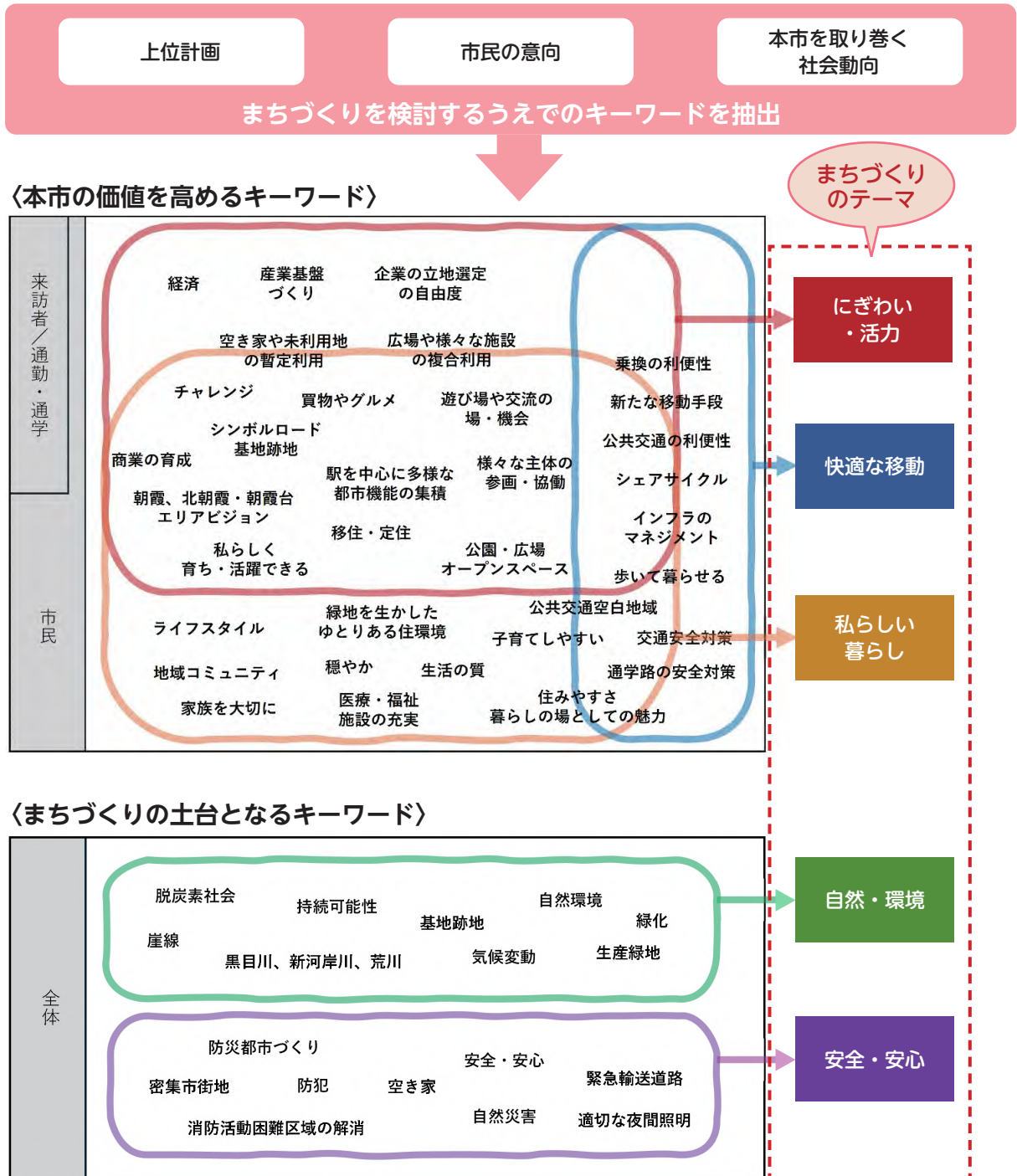
これからのまちづくりでは、他の自治体や市民等のまちづくり活動の主体と連携し、デジタル技術の活用等、絶え間なく創意工夫を重ね、市民生活を安定的に支えられる行財政基盤を構築しながら、未来の朝霞をつくっていきます。

2 将来像の実現に向けて取り組むまちづくりのテーマ

上位計画や、将来のまちづくりに対する市民の意向、本市を取り巻く社会動向の整理から、今後のまちづくりを検討するうえでのキーワードを抽出します。そのキーワードを本計画の対象者「市民、来訪者／通勤・通学、全体」に応じて配置すると、大きく5つのグループに括ることができ、この5つのまとまりを将来像の実現に向けて取り組むべきまちづくりのテーマとして設定します。

上記の5つのテーマは、これからのまちづくりの土台となるものと、本市の価値を高めるものに分けられます。

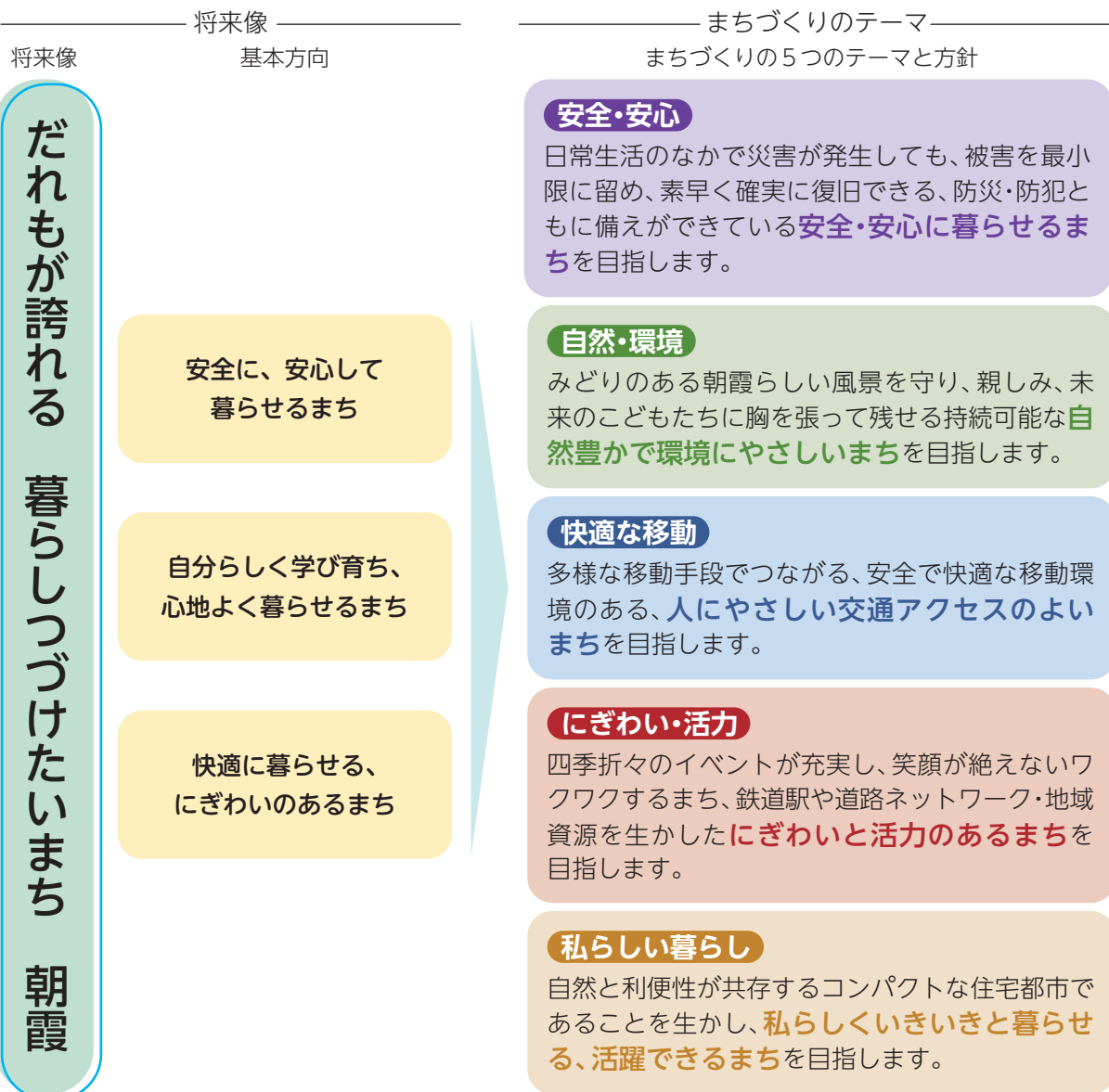
■テーマ設定のプロセス



第2章

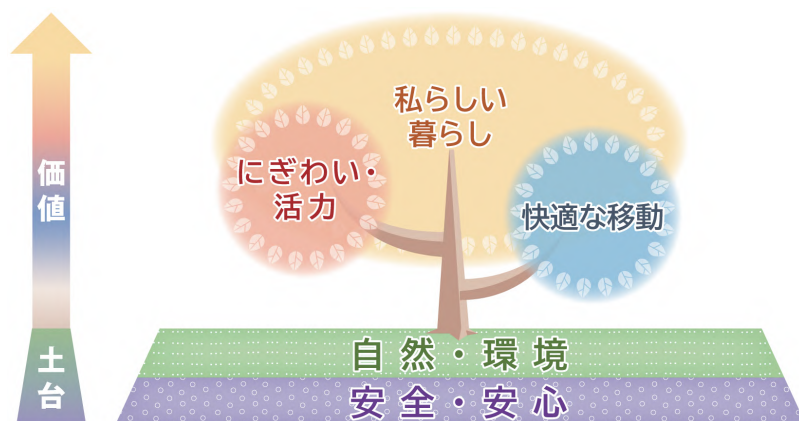
朝霞市の将来像と取り組むまちづくりのテーマ

■将来像とまちづくりのテーマとの関係性



■5つのテーマの関係性

まちづくりの土台となるテーマ「安全・安心」と「自然・環境」の上に、本市の価値を高める3つのテーマ「私らしい暮らし」、「にぎわい・活力」、「快適な移動」を育てていくことを表現しています。



3 まちづくりのテーマに対応する将来都市構造図

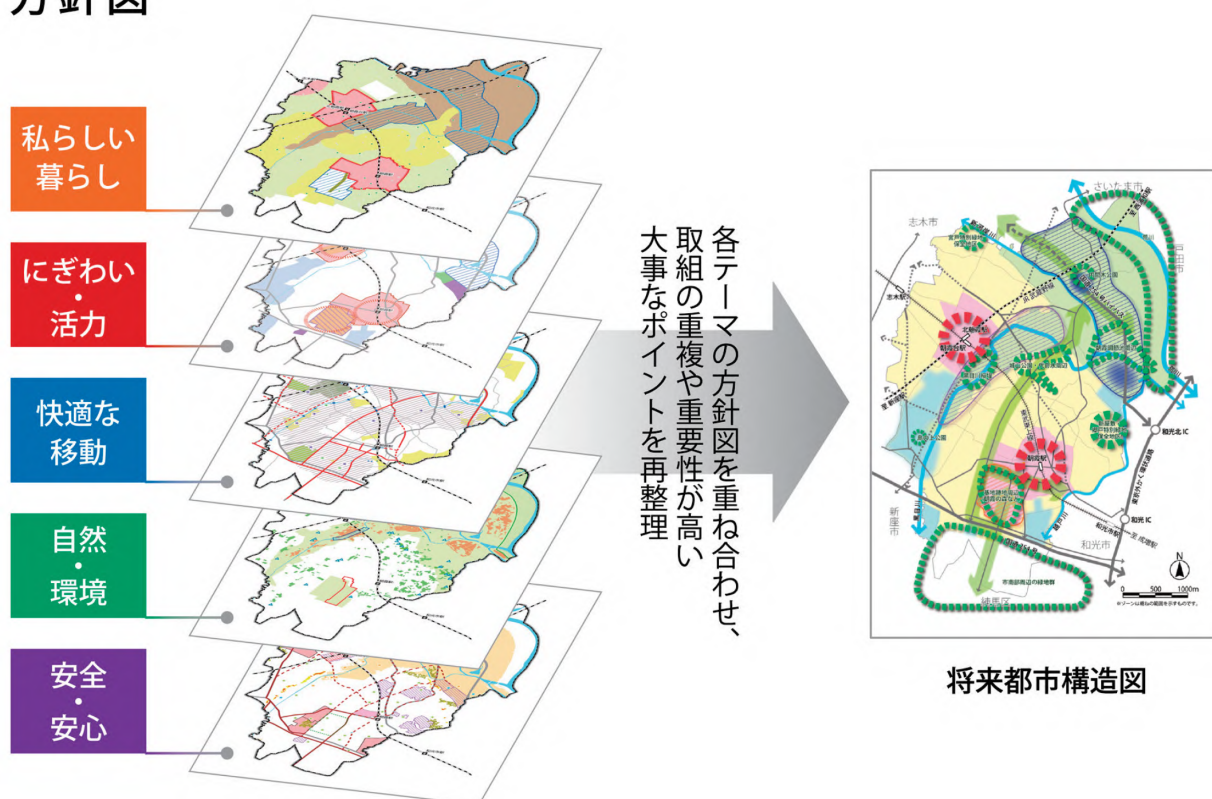
まちづくりのテーマに対応する将来都市構造図は、将来像を実現するため、本市の特徴・課題を踏まえた将来あるべき「都市の骨格イメージ」を明らかにするものです。

将来都市構造図の要素として、行政サービスや医療・福祉、商業、文化等の都市機能の集積や自然環境の保全の核となる「拠点」、居住環境や地形等の状況に応じた土地利用方針を表す「ゾーン」、市内及び隣接都市との交通及び自然環境の骨格を形成する「都市軸」を設定し、それぞれの方針を示します。

上記の将来都市構造図は、後述する5つのまちづくりのテーマに対する方針図を重ね合わせ、取組の重複や重要性の高い大事なポイントを抽出し再整理したものです。

■まちづくりのテーマに対応する将来都市構造図と各テーマの方針図との関係性

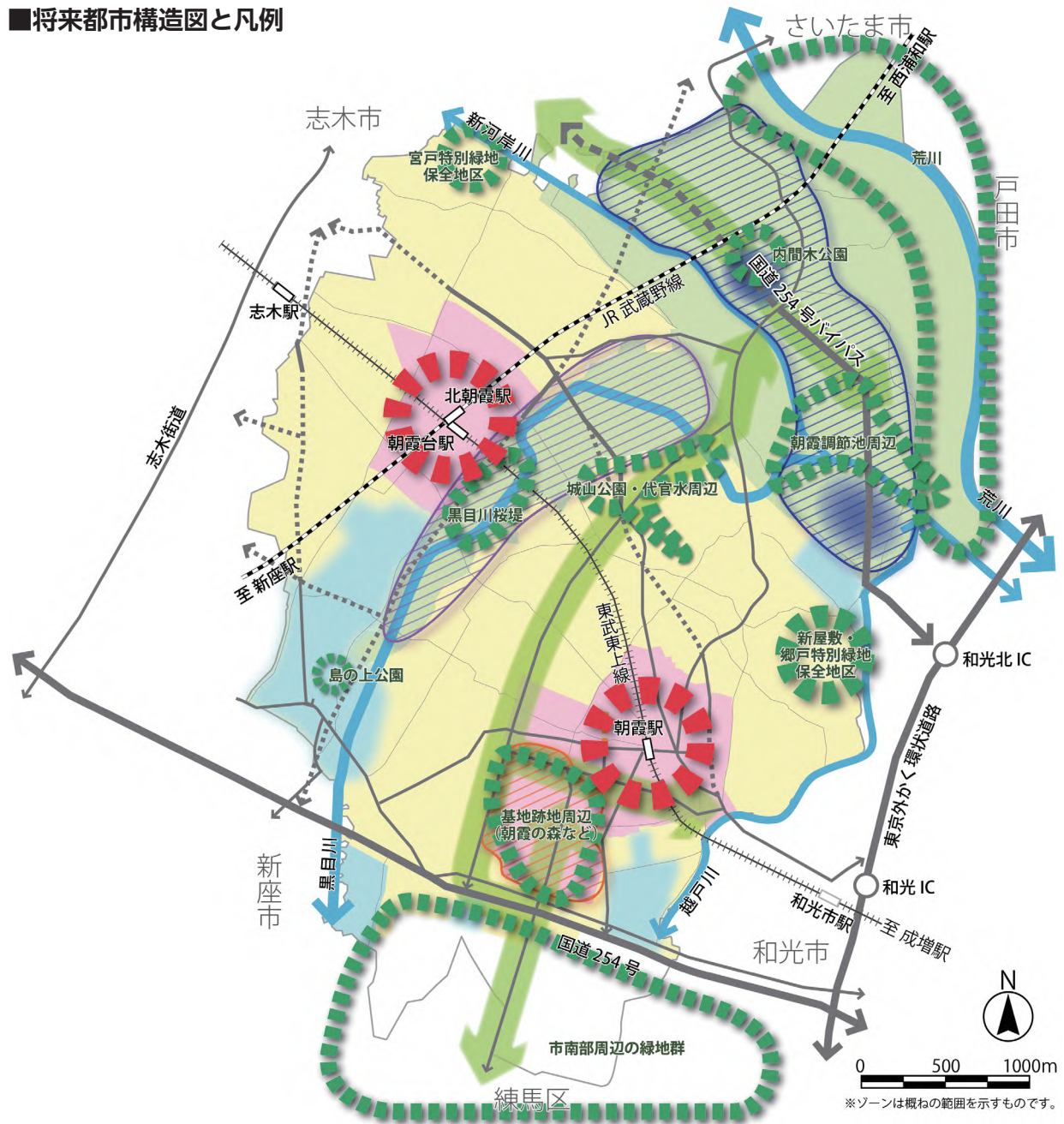
方針図



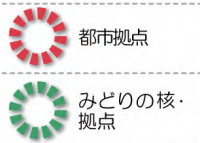
第2章

朝霞市の将来像と取り組む
まちづくりのテーマ

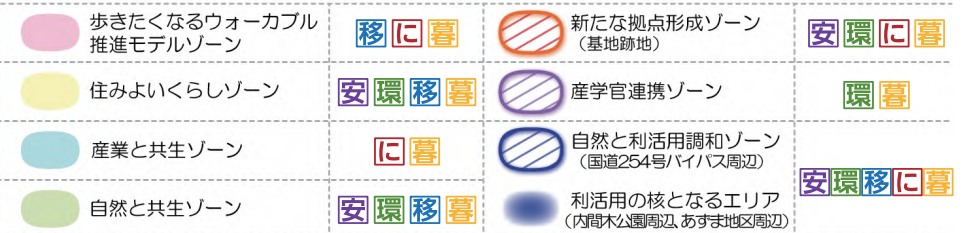
■将来都市構造図と凡例



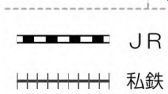
[拠点]



[ゾーン]



[都市軸] 広域交通軸 鉄道



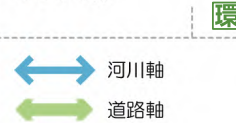
道路 (国道)



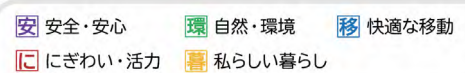
地域交通軸 道路



みどりの軸



[5つのテーマとの対応]



第2章

朝霞市の将来像と取り組む
まちづくりのテーマ

■将来都市構造図を構成する要素の方針

○拠点

都市拠点 移 に 暮 	朝霞駅周辺	- 朝霞駅周辺の道路等の都市基盤整備に加え、商店街の活性化に向け、魅力ある店舗の誘導等による商業業務機能の充実を図ります。また、駅周辺の利便性を生かした医療・福祉・子育て等の各種生活サービス機能や行政サービス等の都市機能の集積を図り、魅力と活力のある中心市街地としてのにぎわいづくりを推進します。 - 駅や商店街、周辺施設が連携し、公共空間や地域資源を活用した安全で楽しく歩きたくなるウォカブルな空間形成を官民連携で推進します。
	北朝霞・朝霞台駅周辺	- 朝霞台駅の建替も見据え、駅周辺の一体的な都市機能の配置・集積を図るとともに、北朝霞地区地区計画による商業業務施設の誘導を維持し、利便性が高くにぎわいや魅力ある商業空間の形成を図ります。 - 駅や商店街、周辺施設、大学が連携し、豊かな自然を生かしながら、安全で楽しく歩きたくなるウォカブルな空間形成を官民連携で推進します。
みどりの核・拠点 環 	基地跡地周辺(朝霞の森など)	- 基地跡地周辺(朝霞の森など)等の拠点は、本市における重要なみどりのストック(資源)であり、その特色を生かし次世代に継承します。 - 荒川や市南部周辺の緑地群は、広域的なみどりのネットワークを形成する重要なみどりとして、管理者と調整の下、みどりの多面的機能の保全を目指します。
	朝霞調節池周辺	
	内間木公園	
	城山公園・代官水周辺	
	島の上公園	
	新屋敷・郷戸特別緑地保全地区	
	宮戸特別緑地保全地区	
	黒目川桜堤	
	荒川	
	市南部周辺の緑地群	

○都市軸

広域交通軸 移 鉄道   道路(国道)  整備済  未整備	鉄道 ・JR武蔵野線 ・東武東上線 道路(国道) ・国道254号 ・国道254号バイパス	近隣都市との広域交通ネットワークを形成し、都市間の快適な移動を促進します。特に整備が進められている国道254号バイパスの整備に向けて埼玉県等の関係機関等との連携を図ります。
地域交通軸 移 道路  整備済  未整備	道路 ・県道 ・主要生活道路 ・都市計画道路	- 広域交通軸を補完し、市内の各拠点等を結ぶ地域交通ネットワークを充実するため、未整備区間の整備を推進するとともに、既存道路の改良を行い、交通流の円滑化を図ります。 - 長期未整備の都市計画道路については、必要性を再検証し計画の見直しを行います。
みどりの軸 環  河川軸  道路軸	・荒川 ・新河岸川 ・黒目川 ・越戸川 ・国道254号バイパス ・ケヤキ並木 ・イチョウ並木	- 荒川、黒目川・新河岸川・越戸川の豊かな自然環境を保全するとともに、河川沿いの散策路や休息空間等を充実させ、自然学習やレクリエーションの場として活用します。 - 街路樹の適正な維持管理を行うことで、街路樹の健全な成長を促し、安全で快適な道路空間を確保します。また、事業中の都市計画道路については、人と環境にやさしい道路づくりを目指すとともに、緑化を進めます。

○ゾーン

歩きたくなる ウォーカブル 推進モデル ゾーン 	・駅周辺でにぎわい・魅力ある空間の創出により歩きたくなる空間を目指すモデルゾーン	・駅周辺に都市機能の集積を図るとともに、通勤や買物等の利便性に魅力を感じる多様な世代の居住の誘導を図ります。 ・シェアサイクル等の多様な移動手段を確保するとともに、官民連携のにぎわいづくりを通じ歩きたくなるウォーカブルな空間を形成します。
住みよい くらしゾーン 	・自然とのバランスが取れた住みよい環境整備を進めるゾーン(住居系用途地域)	・住宅密集地等における防災機能強化を行い災害に強い生活環境を形成します。 ・バス路線やシェアサイクル等による交通利便性を確保しつつ、自然とのバランスのとれた総合的に暮らしやすい住環境を維持します。
産業と共生 ゾーン 	・産業の立地する特性を生かした、住まいとの共存を進めるゾーン(工業系用途地域)	・産業が持続できる環境を確保することにより、活力の創出を図ります。 ・市内に立地する企業等と連携・協働し、居住環境にも配慮した生産環境の確保を図るとともに、地区計画等を活用し住環境の維持・向上を図ります。
自然と共生 ゾーン 	・みどりを保全しつつ、既存集落との共生を進めるゾーン(市街化調整区域)	・公共交通空白地区の解消や防災性の向上等生活環境の改善を図りつつ、水辺空間やみどりの保全を図り、周辺環境に調和するレクリエーション活動の場として活用します。 ・市街化調整区域での無秩序な開発の抑制を図ります。
新たな拠点 形成ゾーン 	・基地跡地の立地する特性を生かした、官民連携でまちづくりを進めるゾーン	・官民連携による公共空間の活用を軸としたにぎわいの創出に取り組みます。 ・周辺の公共施設と連携し自然環境を生かした施設整備や土地利用等の整備を図るとともに、災害時の核となる防災拠点を形成します。
産学官連携 ゾーン 	・大学や病院が立地する特性を生かした、産学官連携でまちづくりを進めるゾーン	・現存する公共公益施設の機能を維持するとともに、景観資源である黒目川の魅力向上を図ります。 ・病院や大学、福祉施設との連携により回遊性の向上を図ります。
自然と利便性 調和ゾーン 	・国道254号バイパスの整備を契機に、自然環境や住環境と調和したまちづくりを進めるゾーン	・都市計画等の制度を活用し、防災・減災、農地・自然環境保全、地域活性化との調和のとれた適切な土地利用を推進します。 ・国道254号バイパス整備による立地特性を生かした産業(商業・工業を含む)機能を確保することやリサイクル拠点の検討等、沿道土地利用の促進を図ります。
利活用の核となるエリア  ・内間木公園周辺 ・あずま地区周辺		

第2章

朝霞市の将来像と取り組むまちづくりのテーマ